

チーム三菱ラリーアート、アジアクロスカントリーラリー2025に『トライトン』の3台体制で参戦

三菱自動車工業株式会社（本社：東京都港区、代表執行役社長兼最高経営責任者：加藤 隆雄、以下三菱自動車）が技術支援するチーム三菱ラリーアートは、本年8月8日（金）～16日（土）にタイ^{*1}で開催されるアジアクロスカントリーラリー（以下、AXCR）2025に、ピックアップトラック『トライトン』の3台体制で参戦します。近年のAXCRは6日間で約2,000kmの設定で競われてきましたが、開催30回目を迎える今大会は8日間で約2,500kmと過酷な設定として競われます。チーム三菱ラリーアートは、『トライトン』のエンジンの耐久性向上や足回りなどの熟成を図り、3年ぶりとなる総合優勝を目指します。

*1…大会実行委員会は6月23日、タイとカンボジアの国境閉鎖の関係で、タイ1か国での開催と決定しています。同委員会によると、新しいコース概要などは近日中に発表される予定です。



2025年 チーム三菱ラリーアート

<AXCR スペシャルサイト>

<https://www.mitsubishi-motors.com/jp/brand/ralliart/axcr/axcr2025/>

<ラリーアート公式 SNS>

X：https://x.com/ralliart_jp

Instagram：<https://www.instagram.com/ralliart.official/>

チーム三菱ラリーアートは、タイのタントスポーツが運営し、三菱自動車から増岡 浩が総監督として参画、開発部門のエンジニアが参戦車の開発を行うとともに、競技期間中はチームに帯同してテクニカルサポートを行います。

ドライバー/コドライバーは、2022年大会で総合優勝を果たしたチャヤポン・ヨーター（国籍：タイ）/ピーラポン・ソムバットウォン（国籍：タイ）を筆頭に、2024年大会で5位入賞した田口 勝彦/保井 隆宏、2024年大会に初出場して完走を果たした小出 一登/千葉 栄二を引き続き起用します。

チャヤポン・ヨーターと田口 勝彦は昨年の仕様をベースに各所に改良が施された車両で参戦し、総合優勝を目指します。三菱自動車の社員であり、開発部門のテストドライバーである小出 一登は、競技用に最適化されたオートマチックトランスミッション車で参戦し、市販車の高性能化の技術検証を行うとともにチームメイトのサポートを行います。

チーム三菱ラリーアートは6月前半にタイの中央、カオヤイ国立公園周辺のオフロードコースで本番を想定して走り込む高負荷耐久テストを実施。エンジンや車体の信頼性・耐久性を確認しながら、サスペンションなど足回りのセッティングを行い、本番に向けた調整を行いました。

チーム三菱ラリーアート総監督 増岡 浩のコメント

「今回のアジアクロスカントリーラリーは、新型となった『トライトン』で臨む3度目のラリーになります。ハイスピードコースでの加速性能やテクニカルコースでのハンドリング、泥濘路や川渡りなど極悪路での走破性など、これまでもあらゆる場面で高いポテンシャルを発揮してきました。今回はエンジンの高トルク化と耐久性向上のほか、足回りを中心に熟成を図り、総合優勝を狙えるクルマに仕上がっています。メンバーは経験を積み、チームワークも高まり、チームとしての総合力が向上しています。3年ぶりの総合優勝に向けて最高の状態に上げていきますので、ご期待下さい。」

1. 「チーム三菱ラリーアート」 チームプロフィール

総監督：増岡 浩（三菱自動車）

チーム代表：シャユット・ヤンピシット（タントスポーツ）

テクニカルディレクター：コーボン・アマータヤクン（タントスポーツ）

テクニカルサポート：相羽 規芳（三菱自動車、車体開発担当）

築城 政隆（三菱自動車、エンジン開発担当）

古市 哲也（三菱自動車、電子電装開発担当）

出場ドライバー/コドライバー：

チャヤポン・ヨーター

出身：タイ・ウドーン タニ

生年月日：1987年8月16日（37歳）

略歴：タイ国内の数多くのラリーやレースで活躍中。2022年のAXCRでは、チーム三菱ラリーアートに初出場初優勝をもたらした。

コドライバー：ピーラポン・ソムバットウォン

田口 勝彦

出身：日本・岡山県

生年月日：1972年2月7日（53歳）

略歴：FIA アジアパシフィックラリー選手権のチャンピオンを2度獲得するなど、海外でも活躍する国際的なラリードライバー。AXCR2024では総合5位に入賞し、3

度目の挑戦となる今回は総合優勝を目指す。

コドライバー：保井 隆宏

小出 一登（三菱自動車）

出身：日本・愛知県

生年月日：1979年6月19日（46歳）

略歴：三菱自動車のテストドライバーとして、これまでに『パジェロ』や『ランサーエボリューション』等、数々の新型車の試験を担当。現在ではテストドライバーの運転教育インストラクターや国内外イベント等でデモンストレーションドライバーを務める。AXCRには昨年初参戦し、チームメイトをサポートしつつ、完走を果たした。

コドライバー：千葉 栄二

2. 『トライトン』ラリーカー概要

	ヨーター／ソムバットウォン車 田口／保井車	小出／千葉車
全長×全幅	5,070mm×1,995mm	5,070mm×1,865mm
ホイールベース	3,130mm	
トレッド	1,730mm	1,570mm
エンジン形式	4N16 型 4 気筒 ターボディーゼル	
燃料噴射装置	高圧コモンレール	
排気量	2,439 cc	
ターボチャージャー	「三菱重工業エンジン&ターボチャージャ」製 VG ターボチャージャー	
最高出力	160kW 以上	
最大トルク	500N・m 以上	
エキゾーストシステム	「HKS」製 AXCR コンペティションモデル	
変速機	6 速シーケンシャル トランスミッション 「Moty's」製 ギヤオイル	6 速オートマチック トランスミッション
4WD システム	フルタイム 4WD	スーパーセレクト 4WD-II
フロント/リヤデフ	「CUSCO」製 差動制限装置付	
フロントサスペンション	独立懸架/ダブルウィッシュボーン式コイルスプリング	
リヤサスペンション	4 リンクリジッド式コイルスプリング	
ショックアブソーバー	「CUSCO」製 減衰力調整式ツインダンパー	
バンプストッパー	油圧式	
ステアリング形式	ラック&ピニオン（パワーステアリング）	
ブレーキ	「ENDLESS」製 モノブロックブレーキキャリパー、 ベンチレーテッドディスク、パッド、 「FORTEC」製 競技用ブレーキフルード	
ホイール	「WORK」製 アルミニウムホイール（17 インチ×7J）	
タイヤ	「横浜ゴム」製 GEOLANDAR M/T G003（245/75R17）	

その他特長	カーボン製：エンジンフード、フロントフェンダー、前後ドアパネル、カーゴアウターパネル	カーボン製：エンジンフード、後ドアパネル、カーゴアウターパネル
-------	--	---------------------------------

3. パートナー企業（50 音順、2025 年 7 月 1 日時点）

「チーム三菱ラリーアート」は、以下のパートナー企業からの支援を受け、AXCR2025 に参戦します。

企業名	サポート内容
ENEOS 株式会社	エンジンオイルの提供
株式会社エッチ・ケー・エス	ラリーエンジンテクニカルスポンサー
株式会社エンドレスアドバンス	ブレーキキャリパー、ローター、パッドの提供
株式会社キャロッセ	前後サスペンション、前後 LSD の開発協力、提供
株式会社トライボジャパン	ギヤオイルの提供
株式会社阪急阪神エクスプレス	活動支援
株式会社ワーク	アルミホイール（CRAG T-GRABIC II）の提供
TPR 株式会社	ピストンリングの提供、活動支援
フォルテック株式会社	レーシングクーラント、ブレーキフルードの提供
三菱自動車販売協会	活動支援
三菱重工エンジン&ターボチャージャ株式会社	ターボチャージャーのテクニカルスポンサー
横浜ゴム株式会社	マッドテレーンタイヤ「GEOLANDAR M/T G003」の提供
有限会社 CARRY ART	活動支援

4.大会概要

AXCR はアセアン最大規模のクロスカントリーラリーです。開催 30 回目の節目を迎える今年は、8 月 8 日（金）にタイ湾の東海岸に位置し、有数の観光地であるパタヤでのセレモニアルスタートによって開幕、タイ国内を回り 8 月 16 日（土）に再びパタヤでフィニッシュを迎えます。コースは山岳部、密林地帯、川渡りなど変化に富み、総走行距離は昨年から約 500km 延長された約 2,500km となり、競技期間も 8 日間に延長されたことで、昨年以上の走破性に加え、さらなる高い耐久性が問われます。

<AXCR2025 公式サイト>

https://asiacrosscountryrally.com/index_ja.html

以上